

マイフーズ

目 標

- ・農作業の体験を通して、ものづくりの大変さや大切さ、工夫や努力について考えることができる。
- ・普段食べている「米」に対する関心を高め、食のありがたさを実感できる。

育てたい力

- 田植え、稲刈り、炊飯体験を通して、農家の工夫や努力について考える。
- 食の大切さを実感し、食料生産について考える。

主な学習活動（社会科：2 時間、総合的な学習の時間：15 時間、家庭科：2 時間）

田植え体験

（6 月）

田植え新聞

作り
（7 月）

島田農園での 稲刈り体験

（10 月）

収穫した米を 使用しての 調理実習

（11 月）

・「くらしを支える食料生産」の学習で調べたことを基に、恵庭市内の島田農園に行き、田植え体験を行った。島田さんより米作りの 1 年間の流れや実際に育てている作物などについて、映像を交えながら説明していただいた。その後、実際に水田に入って田植えをした。手作業で稲を植える大変や米作りに関わることができた喜びも感じ取っていた。

・社会科「米作りのさかんな地域」の学習と田植え体験を踏まえて、「田植え新聞」を作った。一人一人が米作りについて、更に深く考えるきっかけとなった。

・10 月に稲刈り体験をした。事前に島田さんから生育状況などを聞き、台風があった時の対応や様子について、子どもから質問も出ていた。その後、子どもは畑へ移動して、ハロウィンカボチャの収穫を行い、何個ものかごをいっぱいにしていった。収穫や汗を流すことに対して喜んでいった。

・家庭科「ご飯とみそしるを作ろう」の学習では、自分たちが収穫した米を炊飯する学習を行った。苗から米になるまでの過程について実感を伴って学び、子どももおおいしそうに食べていた。



取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは「田植えでは、昔の人たちは、寒い日でもこんなに大変な作業をしなければならぬんだなあと思いました。」「田植えと稲刈りの体験をして、米に興味をもちました。」「稲刈りは、鎌で切るのが大変で米を作るのは、苦勞しているんだなあと思いました。」「稲刈りは、束ねるのが大変でした。」などの感想が寄せられた。

取組の成果

子どもは、農業体験を通して生産者の思いを感じ取ることができた。また、島田さんの米作りなどに対する考え方も学ぶことができた。教室だけの学習だけでなく、教科書で学んだことを実感として感じることもできた。さらに、自分たちで収穫した米を調理して食べ、食育としての教育効果も得られた。

体験先、関係機関

島田農園（恵庭市）